AP 研組織変更について

7月のサッポロの研究会、9月のソサイエティ大会の発表数（208 件：RCS 研と一般セッションで同数トップ）でもわかるように、AP 研は今は元気と言えるでしょう。

これは、先輩たちが切り開いてくれた様々な施策、すなわち、2種研による若手の育成、ISAP や論文特集号企画などの成果発表の場の開拓が実を結んできたことによると思います。

また、MIMO, UWB, ユビキタス、（RFID）などのように AP メンバーが力を発揮することができるサービスが脚光を浴びており、分野に追い風が吹いているといっても良いでしょう。

以上は良い面です。一方で、

1）活発な活動の裏返しとして、組織の運営や活動に必要なボランティアワークの総量が増え、特定の人に集中しないための作業分担の新しい仕組みが必要になっている。
2）AP 研が10年後においても元気である保証は何もない。すなわち、今のうちに次の時代に花が咲く種を蒔いておく必要がある。
3）信学会各ソサイエティの独立採算化への移行（H17 予定）は、研究専門委員会単位での独立採算がとれるような体力づくりが求められる。

など、新しい仕組みづくりの議論が必要な時期になってきています。

10 年前にスタートした AP ワークショップが今日の元気の源だとしたら、10 年後の後輩に同じことを言ってもらえる種まきが今必要と認識しています。

この新しい仕組みについて、執行部（＋幹事経験者等）で以下の素案を作りました。これについて、あるいは、広く AP 研の今後のあり方（戦略）について、

ご意見を，幹事 （ ap_ac-secretary@mail.ieice.org ）までお寄せください。

仕組みづくりや今後の活動にご意見を反映してゆきたいと思います。
（12/6 までにご意見をいただければ、12/16 の次回専門委員会での議論に反映できます。）

AP 研新組織（執行部案）

ソサイエティ独立採算化等に伴い，研究会を取り巻く環境が来年から激変します．具体的には研専運営会議による予算配分，研究会予算の余剰金の返上，技報の値段の自由化，研究会の参加費などです．そのため，これに対応すべく，AP 研の組織も整える必要があります．

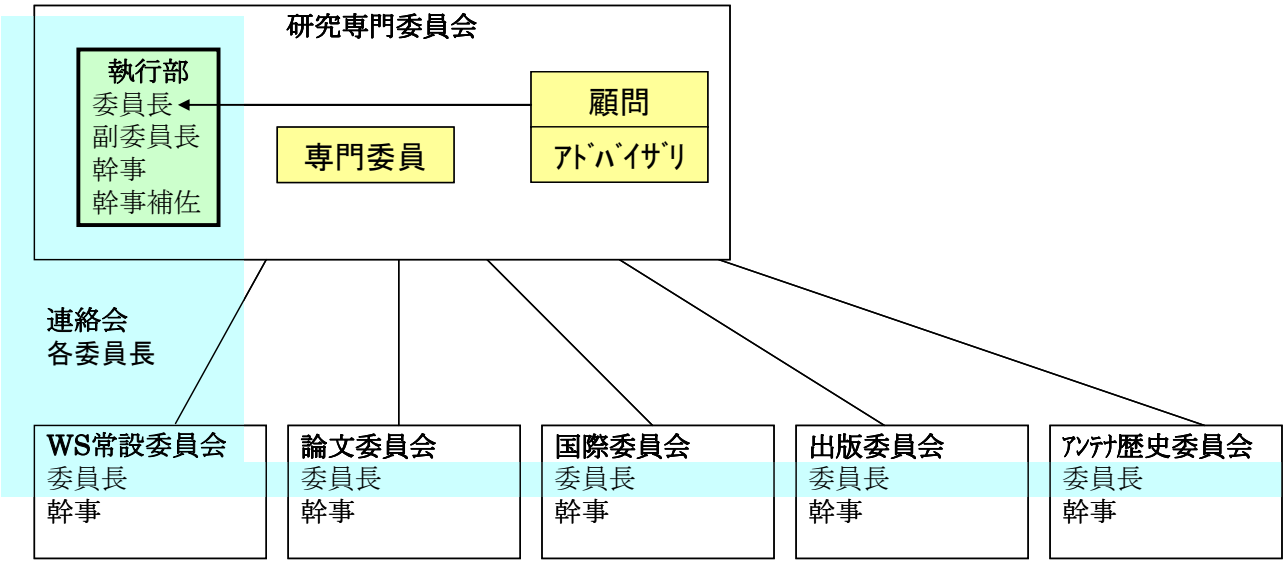
現状は委員長，幹事が全て運営を行っておりますが，仕事量が膨大であるため，副委員長の新設，各種委員会への委譲，専門委員の各委員会参加で対応していきたいと考えております．

業務内容

執行部

委員長	1 人	（総括）
副委員長	1 人	（研専運営会議担当） 新設
幹事	2 人	（総務・会計，1 種研運営,研究会推薦論文の取りまとめ）
幹事補佐	1 人	（広報）

また，AP 研の中に下記委員会を組織し，それぞれに委員長，幹事をおきます．

(1) WS 常設委員会 （2 種研ワークショップの企画）
(2) 論文委員会 （特集号の企画，大会企画）
(3) 国際委員会 （海外開催、合同研究会・ISAP 国際委・AP-S との連携） 新設
(4) 出版委員会 （アンテナハンドブック、出版（本）の提案・企画） 新設
(5) アンテナ歴史委員会 （日本のアンテナの情報収集）

委員会の運営，審議事項等は各委員長に一任することとします．
なお，各委員会の委員長・幹事の任期に関しては，仕事の性質等を鑑み今後決めることとします．
(2 年にこだわらない)